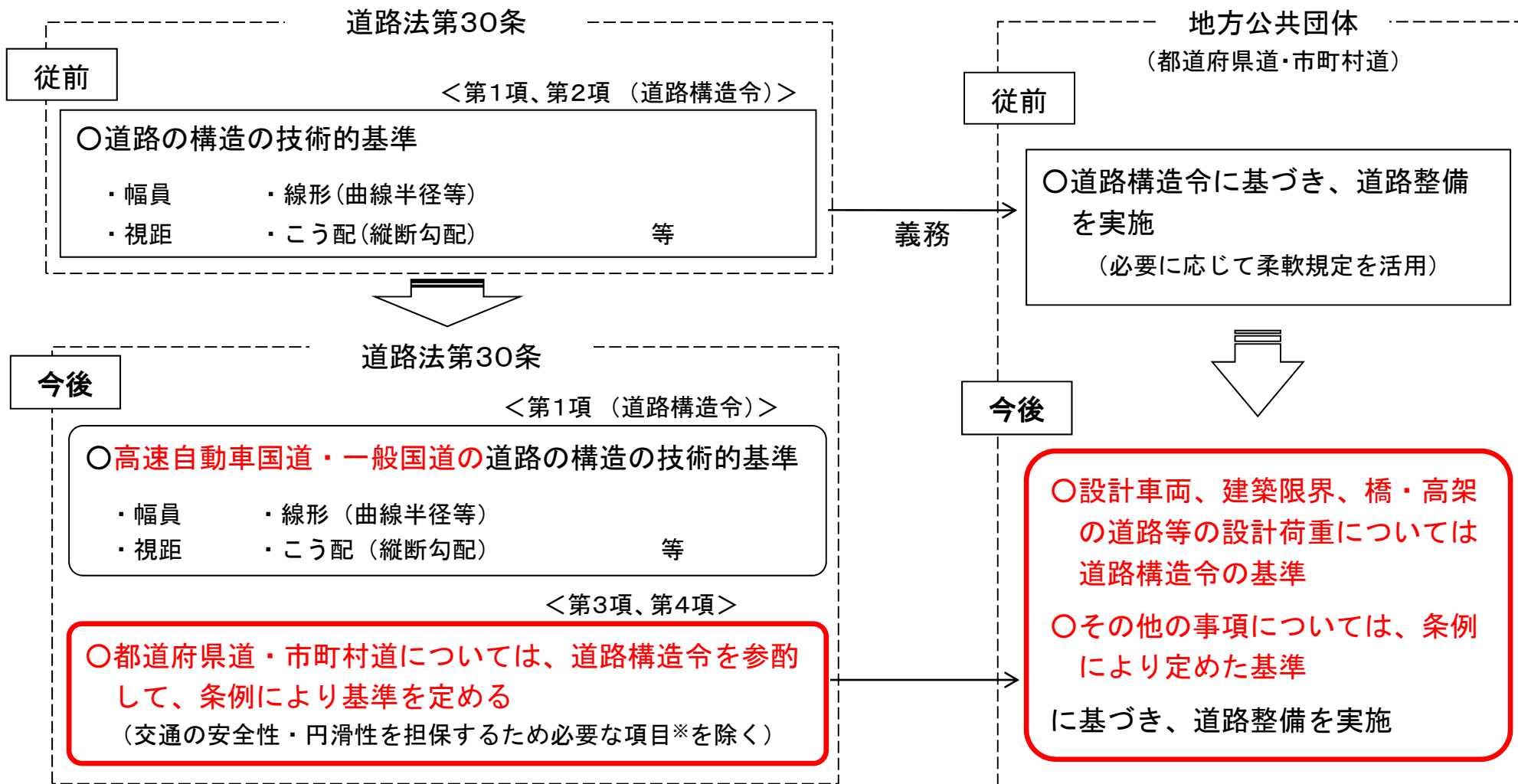


地域主権改革推進一括法案における道路構造令の取扱



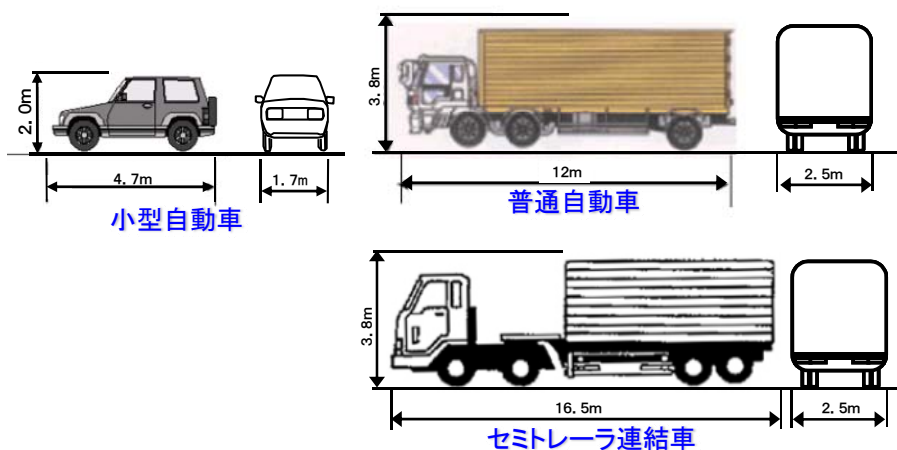
※ 交通の安全性・円滑性を担保するために必要な項目

- 1) 車両の規格等と道路構造の調整
 - 《設計車両（第4条）》
 - 《建築限界（第12条、第39条第4項、第40条第3項）》
- 2) 橋、高架の道路等の荷重条件（第35条第2項、第3項）

参考 車両の安全かつ円滑な通行のため必要な基準

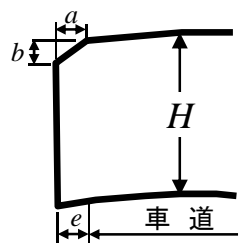
1) 車両の規格と道路構造の調整

《設計車両(第4条)》



《建築限界(第12条)》

○車道に接続して路肩を設ける普通道路の車道の場合



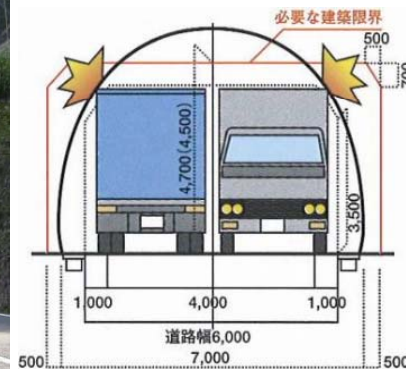
H : 4.5m

a, e : 車道に接続する路肩の幅員

b : H から3.8m※1を減じた値

※1 普通自動車、セミトレーラ連結車の高さ

(建築限界を確保できず大型貨物車がすれ違えない例)



対向車がトンネルを通過するまで入り口で待機するトラック

(高さ制限に関する事故の例)



1989年(平成元年)7月21日

朝日 朝刊27面
橋桁にサンルーフから
頭を出していた子供が衝突し
死亡

低い電線 1歳の命奪う



2007年(平成19年)

12月24日

読売 朝刊 31面

トラックの荷台の建設機械が
建築限界内の電線に接触、
倒れた街路灯が幼児を直撃し、
死亡

2) 橋、高架の道路等の荷重条件(第35条第2項、第3項)

○普通道路 245kN

○小型道路 30kN